形競技の審査評価における三指針

日本合気道協会 師範
志々田 文明
2023/08/30 記

この文書は、「形競技」の競技会において審判員が審査評価をする際に考慮すべき三つの指針について解説したものです。

「形」（かた）とは、嘉納治五郎師範が柔道修行の手段として示した「乱取り」と並ぶ稽古方法であり、ふつうは数十本の技によって一つの形が構成されています。それらの形は一般に、創始者あるいはその組織が定めたものであり、修行者にはその方法を墨守することが求められます。個々の技は、技の受け役と取り役の者が、技の攻防の手順にしたがって淡々と演武されます。

このような嘉納師範の卓越した考え方を、「競技合気道」創始者の富木謙治師範は発展的に受け継ぎました。そして求道的な形の精神と、勝利を追求する競技の精神とが矛盾することを承知の上で、斯道の発展のために、競技化への動きを認め、実施に踏み切りました。しかしその後の形競技の歴史は、形の演武を誇張や衒いによって美化する方向に徐々に傾斜し、形の精神からの乖離を大きくしました。

元来形の演武とは修行の段階を表現するものであり、審査員を想定してその巧みさを競うものではありません。一方、形競技とは、形に精通した審査員よって、形の演武の優劣を審査することをいいます。つまり両者はその目的を異にするため、形の競技には矛盾が内在するのですが、賽は投げられ、本協会では、従来この競技を「演武競技」という名の下に、主に大学生の間であるいは国際大会等で実施してきました。

筆者は、美化の傾向を大きくしたことの反省に立って、形競技者を念頭に、「演武競技のあり方と評価の観点に関する指針」（2019 年）を執筆し、形のあり方について一つの規範を示しました。これを受けて本稿では、審査員を念頭に、審査員が審査評価をする際の三つの指針を表 1 に示すことにします。また名称も、富木師範の形に対する精神をより適切に表現する「形競技」に変更しました。

審査員は、表 1 の内容を総合的に評価し、別に定められた評価用紙等を用いて優劣を判定します。

〇表 1：形競技の審査評価における三指針

三指針	解説	補足解説
1. 基本動作は修得されているか？	演武審査では基本動作の要素を個々に見るのではなく、ゲシュタルト(形態)*として総合的に評価する。	基本動作とは、目付、姿勢、運足、手刀のはたらきなど、受・取双方の基本的な技能をいう。
2. 時空間の間(ま)は適切か？	距離・位置・時機(タイミング)および各技のつながりが、演武に醸し出す品格・味わいを評価する。	間(ま)とは受・取相互の距離・位置・時機(タイミング)など。なお間合は主に位置関係をいう。
3. 誇張や衒（てら）いはないか？	技の掛け方、残身に虚勢はないか、取を引き立たせるための不合理な受身をしていないかなどを評価する。つまり実用性を追求する中で表出される機能	武道の精神とはスポーツの採点競技やエンターテインメントの世界とは異なっている。剣豪宮本武蔵は実用を重んじて大道芸を批判し、基本を修得して臨

	美、また古流の形等にみられる理合の表出を評価する。	機応変の技を求めた。第三指針はこうした思想を継承することである。
＊ゲシュタルト：部分からは導くことのできない一つのまとまった有機的・具体的な全体性のある構造。形態。（精選版日本国語大事典）		
参考文献 ＊富木謙治『合気道入門』（ベースボール・マガジン社,1958）、同『新合気道テキスト』（稲門堂,1963）		

以上